

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(グループホーム百葉清水浪漫館2階ユニット)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 2階ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成28年11月13日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&ligvsvocd=2274202528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>デイサービスとの連携強化を図り、施設全体でお客を支えていく基盤が職員体制や仕組みにある。法人内連携を通じて、サービスの質を高めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>11年目を迎える事業所ですが、管理者は2年目ということもあって気持ちを新たに地域交歓やリスクマネジメントを推進しています。例えば訪問には行事で掲げてきた大福餅を持参してと心配りを添え、近所20軒ほどへ年末の挨拶廻りをおこない顔つなぎから始めています。駐車場の一面を畑にする案では「腰高に配置することで利用者が土いじりをしやすくなるのでは」と業者へ見積もり依頼したり、防犯は法人主導での警備会社とのオンコールを基盤にセンサー導入や駐車場の車の置き方など構造を吟味した対策に取り組んでいます。またこのような事が会議のなかで進んでおり、組織的にボトムアップが成されていることも評価に値します。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて職員一人一人がお客様の個別ケアにあたっている。季刊誌による広報、ブログなどを通じて地域に発信している。	朝礼で「こやまケア」を唱和して意識づけを図っています。特に「地域社会との対話と交歓」に力を入れ、例えば近くに住む牛乳販売店の夫妻は事業所まつりを近隣に呼びかけてくださったり防災訓練にも加わって、ファン第1号と名付けたいくらいの存在となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(飯田まつり)や自事業所祭りなどを通じて地域住民と交流を図る。ボランティア、慰問や地域の保育園、小学校の園児、生徒との交流を行う。	訪問には行事で搦ぎたての大福餅を持参してと心配りを添え、新管理者は近所20軒ほどへ年末の挨拶廻りをおこなう顔つなぎから始めています。駐車場にテントを4つ張っての事業所まつりでは、職員のバント演奏や小学生の演劇披露などもあり250名余の来場者で盛況でした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5月に実施した施設内勉強会「認知症」について職員は理解を深めた。運営推進会議を通じて今後発信していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した防災訓練を運営推進会議で地域の方と振り返る場を持ち、災害用備蓄食料等地域における共通課題を共有した。	家族にも「ご出席確認票」を発送するとともに「介護保険上求められる～」と真摯にお願いすることで、毎回誰かからの参加が得られています。「運営推進会議は次の開催までに地域や出席者にごのようなアプローチができるかが重要」としている点に飛躍への期待が膨らみます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課に出向き、お客様の現況や現在の人員状況及び今後の体制変更に関する相談等行っている。	行政には運営推進会議の案内をだしています。夕方開催のためか市役所からの参加はみられませんが、管理者としては「できるだけつまびらかに」との姿勢を持って電話を頻りに掛けて「聞いて、確認する」に努め、直接窓口にも出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度行っている身体拘束事故対策委員会でお客様の安全について協議している。5月に全職員対象に身体拘束勉強会を実施。7月に法人で実施した「尊厳と身体拘束」研修に参加。	身体拘束ゼロを目指し対象となる利用者もいませんが、指を噛む癖が止まない利用者には医師に相談の上「手指に影響なし」として本人本位で見守っています。施錠は日中はないものの防犯は心配として、センサー導入や駐車場の車の置き方等構造を吟味した対策に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月の身体拘束研修に合わせて、9月に法人内で行った「不適切ケア」研修にて虐待防止に対する意識向上を図った		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括との関わりの中でネグレクトのケースを通じて成年後見制度の必要性に触れる事ができたものの施設職員への学ぶ機会に展開できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数者で管理者が中心に行う為、疑問点は介護現場視点での回答をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。	大半が顔を揃えての家族会があり、夏の流しソーマンは趣向も歓迎され家族間の親交が進んでいます。今年度は2月にも予定し、今後も年2回実施すると決めています。利用者も含めてのホームパーティーのような集いは「こんな姿は初めて」と、家族の新発見にもつながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度、個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画についてはグループワークで職員の声をあげている。	年2回「実務評価表」を用いての面談があり、上位者から助言を得て自らを省みることができるとともに、個別に進言する機会ともなっています。リーダーを中心に忌憚のない意見が挙がり、また法人から管理者に一定範囲の裁量を与えられているため、物品購入もスムーズです。	現状はリーダー会議が核となり運営が活発でスムーズかと察しますが、今後は一般職からも積極的な意見が多く挙がることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表にて個々に実績確認を行っている。生活環境向上委員会にて職場環境向上の為の協議検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初旬に研修参加計画を立てて、職員の力量に合わせた研修機会を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所の連携にて良い取り組みは水平展開しケアの質向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、運営管理側、介護現場側の両視点で聞き取りを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、運営管理側、現場側の両視点で聞き取りを行う。必要に応じてご本人には言いにくい事を施設側でお預かりしご本人と家族との仲介役になる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、訪問マッサージの導入提案や訪問診療への切り替えを提案した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスを通じてご本人の出来る事はケアプランへ反映し、生活記録内にサービス内容を明記し職員は意識化を図る。振り返りはカンファレンスに行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に施設側はご家族と協力して支援していく事の大切さ必要性を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスとの合同行事を通じて馴染みの関係が築いてもらえるような支援を行う。契約時にはご家族と一緒に外出して頂く事の大切さや入所したからといってこれまで行っていたことができなくなってしまうないように働きかける。	パソコンが得意な利用者は、階下のデイサービス時代もパソコン教室発足のきっかけとなるほど凝っていて、居室にも持ち込んでいます。以前タバコ屋を経営していたためか友人、知人が多く、仲良しが週1、2回訪れて四方山話に花を咲かせている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や、食事の際お客様同士の関係性を配慮し連帯感をつくる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の面会にて法人内で対応できることについて相談させて頂いたケースがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を導入。ご本人はもとよりご家族との関わりを密にすることでの希望、意向のき取りに努めている。	アセスメントシートは赤、青、緑と半年毎に色を替えて変更事項を加筆して、変化を把握しやすい方法をとっています。今年度から「居室担当制」を敷き、また「体調確認表」を改良して、職員が利用者を密に観察、アセスメントできる態勢になりつつあります。	質問や聴き方がやや認定調査的(認知症の症状を確認するような)に映る場面もあったため、寄り添いの傾聴について職員間で話し合うことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク情報だけではなく、ご本人、ご家族との関わりの中で得た情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調確認表を導入し、全てのお客様の今日の様子が見える化され情報共有がしやすくなった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議内で職員同士協議し、得た情報をもとにプラン反映している。	介護計画の精度に課題をもち、「サービス内容」が日々の「生活記録」に印刷されるなど書式と方法を改善しています。これまではカンファレンスができないこともありましたが、現在はさらに高め「達成度は○○だから今後どうするか」と職員間の話し合いが展開しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録のサービス実施状況を踏まえてフロア会議でケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの複合型の強みを生かし、体操やレクリエーション等について水平展開し提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のセブンイレブンへの買い物や散歩時の近所の方との関わりを持っていただくようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望で訪問診療への切り替えをおこなった。ご家族は負担軽減の上、安心に繋げることができた。	重度化から付き添い中に転倒等があったりと家族の受診負担が年々増えていたところ、事業所では新たに協力医が加わることとなり、家族から「切り替えたい」との要望が浮き彫りになって、現在は全員が月2回訪問診療のある協力医療機関に変更しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携に加え、デイサービス看護師との連携も深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院地域連携室で出向き、施設の現状を情報発信している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の先生と共にご家族に説明し今後のケア方針を協議する。事業所で実施可能な取り組みについて発信しご家族とともにすすめている。	訪問看護事業所と契約し、週1回の健康管理を受けて医療連携体制加算もとり、看取りに向けた体制も整っています。看取り例は此処数年なく、今勤務の職員は経験が少ないため、同法人の実績のある事業所職員に指南依頼を打診しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルが法人統一ルールで整備され、教育訓練を行う。 今年度普通救命講習に対象7名受講		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に防災訓練、9月に風水害を想定した避難訓練を実施。併せて安否コール訓練を行った。	年3～4回開催、内1回は消防署の指導を受け、特にリビングからつながる外階段を使った避難方法は「車いすごと」「両脇をかかえて」「おんぶして」と様々試行して、時間がかかることも確認しています。また他にも法人が定めた「(職員の)安否コール」も試運用しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こよまケア委員会を中心に、個別ケアを実践している。浪漫館こよまケア10ヶ条により職員が取り組みやすく馴染みやすいものにした。	「こよまケアの行動指針」をベースに「浪漫館の行動指針」を設け、介護に接遇マインドが加わった実践を目指しています。また法人でも新たに「不適切ケアについての学びを深めよう」としており、今後も勉強会が続けられる予定です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によって差があるものの、希望に添えるような人員配置を週割りにて展開している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤リーダーを中心に、週割りの通じて突発的なものへの対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からの情報を頼りに、お客様のこだわりを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師を持った介護職がデイサービスの栄養課職員と連携しお一人お一人の好みに合わせた食事提供をしている。月に一度の栄養課会議にて情報共有し展開している。	手作りの食事を職員とともにテーブルを囲み、職員にとってはアセスメントを兼ね、利用者は胸襟の場となり、和気藹々とした空気が流れています。車いすから椅子に移乗して、またテーブルとの距離も調節され、職員の介護知識の高さが視えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調確認表を用いた水分量の管理や、食事形態表にてお客様の食事提供の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア充実の為、共有スペースに洗面を増設。歯科衛生士をもった介護職を中心に今後口腔ケア勉強会を実施していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調確認表を通じて、お客様の排泄パターンを読み取り、定時、随時のトイレ誘導を実施。パットの使用状況についてはご家族様と情報共有し対応している。	失禁が増えた人には排泄チェック表をはじめ係る記録から推量して、手前での誘導をおこなうことで、失禁とともに嫌な想いを減らすことが叶っています。お腹をさすったり、ヨーグルトやオリゴ糖を食してもらい便秘対策にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用や、乳製品も用いて薬に頼らない便秘予防に努めた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じて、午前浴を導入。週割りと体調確認表によりチーム内にお客様に合った入浴案内ができるよう浸透を図る。	車いすを使うようになっても本人の希望があり、また状態がよければ2人介助で湯に浸かる喜びを味わってもらえています。シャンプーなどは常時置かず、職員が都度保管庫から出し入れしており、ヌメリなどなく清潔です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様お一人お一人にあった生活リズムをつかみ馴染みの関係の輪の中で休息がはかれるよう支援していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	8月に薬勉強会を実施。服薬関連のヒヤリハットについては事故対策委員会で協議深める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前まで取り組まれていた、脳トレーニングについて現在も実施継続して頂いているが、集中して行って頂けるよう環境設定に注意していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イルミネーション外出企画を実施。散歩を通じて地域の方と交流される。	散歩は利用者本人の状態や天候を鑑みて出掛け、重度化のため小人数ですが気分が乗れば大型スーパーマーケットまで足を延ばしています。飯田祭り、七夕祭り、どんど焼き、初詣、桜の花見が恒例として位置付けられ、中には誕生日祝いに職員と回転寿司に行く人もいます。	「日本平動物園に行きたいね」との声もあることから、季節毎の遠足企画などがあることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を本人管理されている方について定期的に事務所で事務員との確認を行っている。お小遣いを事務所で管理し、必要な物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設よりご家族に電話連絡し、お客様との橋渡しになる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床材の貼り換えを行い。明るい色を用いた。	古民家風の造りにマッチした藍色のブラインドは光が強ければ下げ、やわらげば上げて景色を眺めると、職員が臨機に対応しています。また昨年度の外部評価で課題とした掃除は、仕組みと手順を見直して、見違えるほど一新しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し気軽にお客様同士が交流がはかれるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの食器等を持ってきていただく案内をしている。	一般的なエアコン、カーテン、クローゼットが備わるほか、全体の大正ロマンの雰囲気に合わせたベッドと洗面台が目を惹きます。洋服のハンガーかけや小さな椅子、化粧水や櫛などの小物を持ち込み、その人らしく暮らしていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯等お客様ご自身で行う事が出来る方は、職員見守りの中行って頂く。危険箇所についてはヒヤリハットを通じて振り返りを行う。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(グループホーム百葉清水浪漫館3階ユニット)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 3階ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成28年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスとの連携強化を図り、施設全体でお客様を支えていく基盤が職員体制や仕組みにある。法人内連携を通じて、サービスの質を高めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

11年目を迎える事業所ですが、管理者は2年目ということもあって気持ちを新たに地域交歓やリスクマネジメントを推進しています。例えば訪問には行事で搦きたての大福餅を持参してと心配りを添え、近所20軒ほどへ年末の挨拶廻りをおこない顔つなぎから始めています。駐車場の一面を畑にする案では「腰高に配置することで利用者が土いじりをしやすくなるのでは」と業者へ見積もり依頼したり、防犯は法人主導での警備会社とのオンコールを基盤にセンサー導入や駐車場の車の置き方など構造を吟味した対策に取り組んでいます。またこのような事が会議のなかで進んでおり、組織的にボトムアップが成されていることも評価に値します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて職員一人一人がお客様の個別ケアにあたっている。季刊誌による広報、ブログなどを通じて地域に発信している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事(飯田まつり)や自事業所祭りなどを通じて地域住民と交流を図る。ボランティア、慰問や地域の保育園、小学校の園児、生徒との交流を行う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5月に実施した施設内勉強会「認知症」について職員は理解を深めた。運営推進会議を通じて今後発信していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した防災訓練を運営推進会議で地域の方と振り返る場を持ち、災害用備蓄食料等地域における共通課題を共有した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課に出向き、お客様の現況や現在の人員状況及び今後の体制変更に関する相談等を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度行っている身体拘束事故対策委員会でお客様の安全について協議している。5月に全職員対象に身体拘束勉強会を実施。7月に法人で実施した「尊厳と身体拘束」研修に参加。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月の身体拘束研修に合わせて、9月に法人内で行った「不適切ケア」研修にて虐待防止に対する意識向上を図った		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括との関わりの中でネグレクトのケースを通じて成年後見制度の必要性に触れる事ができたものの施設職員への学ぶ機会に展開できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数者で管理者が中心に行う為、疑問点は介護現場視点での回答をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度、個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画についてはグループワークで職員の声をあげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表にて個々に実績確認を行っている。生活環境向上委員会にて職場環境向上の為の協議検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初旬に研修参加計画を立てて、職員の力量に合わせた研修機会を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所の連携にて良い取り組みは水平展開しケアの質向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、運営管理側、介護現場側の両視点で聞き取りを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、運営管理側、現場側の両視点で聞き取りを行う。必要に応じてご本人には言いにくい事を施設側でお預かりしご本人と家族との仲介役になる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、訪問マッサージの導入提案や訪問診療への切り替えを提案した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスを通じてご本人の出来る事はケアプランへ反映し、生活記録内にサービス内容を明記し職員は意識化を図る。振り返りはカンファレンスに行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に施設側はご家族と協力して支援していく事の大切さ必要性を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスとの合同行事を通じて馴染みの関係が築いてもらえるような支援を行う。契約時にはご家族と一緒に外出して頂く事の大切さや入所したからといってこれまで行っていたことができなくなってしまうないように働きかける。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や、食事の際お客様同士の関係性を配慮し連帯感をつくる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の面会にて法人内で対応できることについて相談させて頂いたケースがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を導入。ご本人はもとよりご家族との関わりを密にすることでの希望、意向のき取りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク情報だけではなく、ご本人、ご家族との関わりの中で得た情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調確認表を導入し、全てのお客様の今日の様子が見える化され情報共有がしやすくなった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議内で職員同士協議し、得た情報をもとにプラン反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録のサービス実施状況を踏まえてフロア会議でケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの複合型の強みを生かし、体操やレクリエーション等について水平展開し提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のセブンイレブンへの買い物や散歩時の近所の方との関わりを持っていただくようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望で訪問診療への切り替えをおこなった。ご家族は負担軽減の上、安心に繋げることができた。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携に加え、デイサービス看護師との連携も深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院地域連携室で出向き、施設の現状を情報発信している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の先生と共にご家族に説明し今後のケア方針を協議する。事業所で実施可能な取り組みについて発信しご家族とともにすすめている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルが法人統一ルールで整備され、教育訓練を行う。 今年度普通救命講習に対象7名受講		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に防災訓練、9月に風水害を想定した避難訓練を実施。併せて安否コール訓練を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心に、個別ケアを実践している。浪漫館こやまケア10ヶ条により職員が取り組みやすく馴染みやすいものにした。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によって差があるものの、希望に添えるような人員配置を週割りにて展開している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤リーダーを中心に、週割りの通じて突発的なものへの対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からの情報を頼りに、お客様のこだわりを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師を持った介護職がデイサービスの栄養課職員と連携しお一人お一人の好みに合わせた食事提供をしている。月に一度の栄養課会議にて情報共有し展開している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調確認表を用いた水分量の管理や、食事形態表にてお客様の食事提供の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア充実の為、共有スペースに洗面を増設。歯科衛生士をもった介護職を中心に今後口腔ケア勉強会を実施していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調確認表を通じて、お客様の排泄パターンを読み取り、定時、随時のトイレ誘導を実施。パットの使用状況についてはご家族様と情報共有し対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用や、乳製品も用いて薬に頼らない便秘予防に努めた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じて、午前浴を導入。週割りと体調確認表によりチーム内にお客様に合った入浴案内ができるよう浸透を図る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様お一人お一人にあった生活リズムをつかみ馴染みの関係の輪の中で休息がはかれるよう支援していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	8月に薬勉強会を実施。服薬関連のヒヤリハットについては事故対策委員会で協議深める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前まで取り組まれていた、脳トレーニングについて現在も実施継続して頂いているが、集中して行って頂けるよう環境設定に注意していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イルミネーション外出企画を実施。散歩を通じて地域の方と交流される。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を本人管理されている方について定期的に事務所で職員との確認を行っている。お小遣いを事務所で管理し、必要な物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設よりご家族に電話連絡し、お客様との橋渡しになる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床材の貼り換えを行い。明るい色を用いた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し気軽にお客様同士が交流がはかれるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの食器等を持ってきていただく案内をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯等お客様ご自身で行う事が出来る方は、職員見守りの中行って頂く。危険箇所についてはヒヤリハットを通じて振り返りを行う。		